

MY LIFE

— オ学の充実した施設に感謝留学 —



世界に広がれ！ 友達ネットワーク
(後列左から2番目が私)

私ほどの関大好きはいないといっても過言ではないでしょう。そもそも私と関大との出会いは高校3年生の夏でした。関東、関西にかかわらずいろいろな大学を見学に行った私ですが、関

大を見た瞬間にその規模の大きさとキャンパスの雰囲気にも一目惚れしました。この学校なら私を受け入れてくれる、そういった直感を感じたのを覚えています。

晴れて関大生になった私が関大の良さに改めて気付いたのは大学2年次生の時でした。2年次生になると同時に以前からの夢であったアメリカ留学に向けてTOEFLの勉強を始めた私は関大のその充実した施設に驚きの連続でした。英語の勉強をする



弁護士という夢に向かって

関大に入ってからというもの、大学とは遊べるようで遊べないのだと実感しました。そして、うまくやるとこれほど充実した生活は無いのだとも実感したのです。

私には幼いころからなりたいたいものがありました。大きくて今でも届く気配の無い夢。弁護士になるという夢です。そのため、入学当初から毎日バイトと予習復習に明け暮れる毎日でした。あんまり詰め込んだせいもあってか、だんだん最初ほどの勢いが無くなっていくのが自分でもわかるようになっていきました。

そこで、参加したのがインテンシブという、夏と冬に行われる英語の集中講座でした。多くのひととで、楽しめました。その流れで私はサークルに参加することになったのです。時間は今まで以上になくなってしまいました。バイトも授業もサークルも遊びも、すべて全力投球で、でも、充実していました。高校までにはできなかったことができるんです。そのかわり、責任とリスクは自分で背負わなくてはなりません。この1年

にあたって私が特に活用した施設はテープライブラリーです。そこでは語学学習のためのテキスト、カセットテープ、CDなどを自由に借りることができます。私は自分ではテキストを一冊も買わず、その代わりにテープライブラリーにあった教材の全てをやり尽くしました。

また関大には関西圏でNo.1の規模を誇る図書館があります。夏休みの大半を図書館で過ごした経験のある私は知っています。とにかく凄いです。書庫の量だけでなく館内の雰囲気も非常によく勉強するには最適な空間でした。

こうした関大の施設を十二分に利用した学習の結果、見事昨年一年間で念願のアメリカ留学を果たすことができました。

学ぶ意欲のある者にはとことん勉強できる環境が整っている。これが私の関大に対して抱くイメージであり、事実です。高校3年生の時に感じたあの私の直感は正しかったと素晴らしい先生方や事務職員の方、そして大好きな友達に囲まれながらつくづく思う今日この頃です。(文学部4年次生 山下晴世)

MY LIFE

勉強、アルバイト、サークル…
— 大学生活は遊べない! —

僕が商学部祭実行委員(以下商祭)に入った理由は、商祭の先輩に履修のアドバイスをしてもらっている時に、関大の学園祭についている話を聞いて、「おもしろそうだ、自分もやってみたい」と思ったことでした。

たぶん、多くの関大生は学祭の表の部分しか見たことがないと思います。僕も初めは学園祭なんかたいしたことないと思っていました。でも実際に自分でやってみると、ほんとにしんどいことがわかりました。例えば模擬店を一つ出すにしてもどんな店をどこに出すのか、またいつ出すのかなど様々なことを決めなければなりません。そして、ステージ企画一つにしても、実行委員は何度も企画を練り直し、そして何度も司会の練習などをしていました。そして学園祭当日はほんとにたくさんの人がきてくれました。関大の学祭には2万人ぐらいいると言われ、当日はすごい人でした。

僕の場合は、学祭の準備を1ヵ月前ぐらからしていました。そして2週間前からは、朝8時には大学に着いて、終電で帰るというような生活だったので、本当に大変



最高の笑顔でピース

でした。でもこれだけしんどい思いをしたので、学園祭が終わった時の感動も大きかったです。打ち上げの時には、商祭のほとんどの人が泣いていました。僕も何だかわけもなく涙が出てきて、大泣きしてしまいました。

もしこんな経験をしたいという人は、学園祭実行委員になってみるのもいいかもしれません。みんなとは違う学生生活が必ず送れると思います。

(商学部2年次生 吾妻丘彰)

MY LIFE

終わって大泣き!!
— 学祭でひと味違う学生生活を —

私の

関大ライフ

MY LIFE

もっと早く入れば良かった…
— クラブならではの体験たくさん —

私は現在、体育会1部柔道部に所属しています。しかし、1年次生の時からクラブに入っていた訳ではありません。

私は、中学、高校と体育会のクラブに所属していましたが、大学に入学してまでクラブ活動は…と思い、1、2年次生の時は、何気ない大学生活を過ごしていました。しかし、3年次生になり、「自分は、やっぱり、体育会のクラブに入りたい」と強く思うようになりました。そして、以前から興味があった柔道部の門を叩いたので



主将と入で(右が私)

す。そこから私の充実した日々が始まりました。

クラブに入って一番良かったことは、友達が増えたことです。自分のクラブは、当たり前ですが、いろいろなイベントを通じて、他のクラブの人達とも知り合うことができ、いろいろな意味で視野も広がりました。

そして、柔道部に入部することで、柔道だけではなく、日本のしきたり、礼儀作法、人間関係などを学ぶ事ができました。また、体育会のクラブに入らないと味わうことのできないであろう、学歌、応援歌、道謡歌の斉唱なども経験できました。こんなに楽しくて良い経験がたくさんできる所に、なぜ、1年次生の時から入らなかったのか？ 今では、すごく後悔しています。

現在、私は、クラブ、ゼミ活動、就職活動と、毎日忙しい日々を過ごしています。しかし、素晴らしい先輩方、後輩達、そして、同年次生の仲間と囲まれて、毎日が充実しています。私は柔道部に入って本当に良かったと思うと同時に、関大に入学したことを誇りに思います。(経済学部4年次生 細川 力)

MY LIFE

偶然が生んだ演劇人としての僕
— 「場」と「仲間」を活用すべし! —

僕は現在、総合情報学研究科の大学院生として研究に携わる傍ら、もう一つの顔を持っている。それは演劇。そう、エンゲキ、お芝居をしている。

僕は、大学の演劇サークルの仲間と共に、『特攻舞台 Baku-団』という劇団を発足し、年に何本もの公演を行っている。最近では大阪市の(株)大家連という団体と協力し、精神障害をテーマにした演劇と精神科医によるコラボレーションイベントを行った。新聞に載ったり、ラジオで流れたり、ちょっと鼻高々だ。

お世辞じゃなくて、僕がこうして今の、研究&演劇生活をおくれているのは関西大学という『場』のおかげだった。僕が総合情報学部に来たのは、本当に偶然。正直に言えば、第1志望ではなかった。何の目的もなく、ただただ「何かしなければ」という意欲だけが先行する僕が選んだのは、「万絵巻(よろづゑまき)」という演劇サークルに入る事。これも偶然。もちろん、演劇なんて未経験。初めての仲間と初めての演劇経験。

それから4年。演劇が好きっていうより、一緒にいる仲間たちが、その場所がお気に入りになっていた。

で、気付けば、今の二足のわらじ状態。そう、こんな事が許されるのも、関大という『場』と『仲間』のおかげだ。感謝。

勉強もいいし、クラブもいいし、遊ぶのもいいし、コンパもいいし、バイトもいいと思う(僕は全部やった、もしくはやっている)。新入生の皆さん、関大という『場』と『仲間』を大いにフル活用すべし! なのだ。

(総合情報学研究科修士課程 水本 剛)



特攻舞台 Baku-団公演『Live my Place!』より
(右側のオレンジ色のパーカーを着ているのが私)

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

いま、みなさんは、ようやく受験勉強から解放され、新しい生活を始めようとしています。これからの四年間は、さまざまな夢や目標を達成することができる

MY LIFE

資格に挑戦する過程が大事
— 4年間をどう充実させますか —

たたいま研究打ち合わせ(中央が私)



今日も笑顔でお伝えします

私は今、KBC(関西大学放送研究会)に所属しており、毎日の学内放送の他、発表会や、コンテスト参加などの活動をしています。中・高と放送部だった私ですが、実質的な放送活動やトレーニングなど、また違うものに触れています。昨年末のNHK放送コンテストでは優勝を果たし、結果を残すことができました。その他にも、部の運営面や、学祭、発表会などのイベント準備を通して、人間関係や、社会を学ぶよい機会になっています。

またこれは個人的な活動ですが、部の活動を生かして、地元のケーブルテレビでは、市民リポーターをしています。そしてなにより、専攻がマスコミなので、授業をそれらの活動に、またそれらの活動を授業にフィードバックさせたいと思っています。

大学生は、何をやるにも自分次第です。授業の履修も自分自身で選択せねばならないし、高校までは制限されていた多くのことから解放されます。きまりがないということは、同時に、注意されたりとめられること

がないということでもあります。つまりその分、自分自身での制限、決断が必要で、自分自身で始めない限りは、何も起こらないことだと思います。待っている、大学生時代はなにも始まりません。自分から行動し、働きかけなければ置いていかれるだけです。しかしだからこそ、自分の行動でどんどん変えることができます。

いろいろな経験をするいい期間です。身近なことを最大限に利用して、学生生活を充実させてください。

(社会学部3年次生 佐々木なほ)



私は大学・大学院の6年間で宅地建物取引主任者、照明コンサルタント、2級建築士の資格を取得しました。資格を取ろうとしたきっかけは、「こんな資格があるんだな」という非常に些細なことでした。宅地建物取引主任者(通称:宅建)は宅地や建物の取引業務に関するもので不動産系には必要な資格です。照明コンサルタントは建物の照明のコンサルティング能力を認定するものです。2級建築士は建築家をはじめ責任のある立場で、住まいづくりや街づくりにかかわる仕事にとっては必須の資格です。

これらの共通点は「住」に関する、ことですが、それぞれの「住」に対する視点・捉えかたが異なっています。一つの「ものごと」に対し、いろいろな視点から見ていくことはどんなことに対して必要なことなのです。

学生時の資格取得は一つのきっかけであって、得られる資格が重要なのではなく、資格取得への挑戦過程こそが重視すべき点だと思います。私の場合は、大学院の研究で建築の照明の研究に取り組んでいましたが、より幅広い視野から建築を学ぶことを考えたことがきっかけとなりました。

大学生活では学生自身の自主性が尊重されます。勉強に精を出すのもよし、アルバイトに精を出してもよし、サークルに打ち込むもよし。それそれぞれのスタイルがありますが、同じ4年間です。要はその4年間をどう充実したものにするかだと思います。(2003年3月工学研究科博士課程前期課程修了 田中利興)

MY LIFE

自分が求めていた意外な正解
— ニュースクールという選択 —



ニュースクールセンターの子どもたちと(右端が私)

(文学部4年次生 平野拓朗)